

細川流 盆石の世界

2024年

2/15(木)→2/18(日)

9:30～17:00 (最終日は16:00まで)

会場 徳島県立阿波十郎兵衛屋敷
入場料 一般410円、高・大310円、小・中200円
主催 細川流盆石社中 家元師範 大塚爽匠
徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

日本人は古来、美しい風土の中で

自然を愛し、自然と親しみ、

人生と自然を融合させてきました。

この日本人の自然観を黒塗りの盆の上に

表現するのが「盆石」です。

黒い盆の上に自然石を置いて山々を表し、

白砂をまき、羽根や小さなホウキで

流れや波を描くことで、

雄大な海や川を表現します。

人形浄瑠璃もそうですが、

伝統的な日本の文化の中には、

繊細で丁寧、緻密で簡素な

日本人ならではの感性が息づいています。

阿波人形浄瑠璃の公演と併せて

ぜひこの機会にお楽しみください。

お花／華道草月流 出村丹雅草
煎茶席／煎茶道 黄檗売茶流朱仙会

会場・お問い合わせ

徳島県立阿波十郎兵衛屋敷

徳島市川内町宮島本浦184

Tel.088-665-2202 Fax.088-665-3683

awajurobeyashiki@mf.pikara.ne.jp

<https://joruri.info/jurobe/>



細川流 盆石の世界

盆石の楽しみ

砂の白とお盆の黒とのコントラストで表現される自然は、見る人によって色がつき広がり生まれ景色が完成します。仰ぎ見る山ひだ、流れ落ちる滝の勢い、湖面に写る月など四季折々の自然現象や、現代的な題材まで、さまざまな表現が可能です。

自分が美しいと感じた山や川などの自然の風景を表現し、自然に対する見方が変わり、自然を丁寧に見つめていくことができるようになるのが盆石の楽しさです。日本で生まれ、日本にしかない盆石の世界に触れてみてください。



自然を愛し
自然と親しむ

盆石の歴史と細川流

盆石の歴史は、千数百年前に始まったといわれています。そして、江戸時代になると、茶室の床飾りとして茶道と合流し、やがて江戸中期から末期には縮景芸術として独立しました。中でも武将・茶人として有名な、細川幽斎・山斎父子が始祖といわれる細川流盆石は、盆石が盛んであった江戸時代には四大流派の一つとされており、現在は「一般財団法人 細川流盆石」に受け継がれています。



阿波人形浄瑠璃定期公演

徳島は、全国で最も人形浄瑠璃が盛んな人形浄瑠璃の国でもあります。この機会に、阿波人形浄瑠璃の公演も併せてお楽しみください。

【公演時間】2月15日(木)、16日(金) 11:00～

2月17日(土)、18日(日) 11:00～、14:00～

【演目】「傾城阿波の鳴門 順礼歌の段」

盗まれた主君の刀を探すために十郎兵衛、お弓の夫婦は盗賊に身をやつし、大阪玉造に住んでいます。仲間から、追っ手が迫っているのですぐに逃げるようにとの知らせを受けたところへ、父母を探す巡礼姿の娘が通りかかります。家へ上げて話しを聞くうちに、お弓はすぐに娘のお鶴と気づきますが、お鶴を巻き込まないようにと名乗りもせず、涙をのんで別れます。しかし、お鶴の歌う巡礼歌にたまらず後を追ってしまいます。